

# 図書館だより

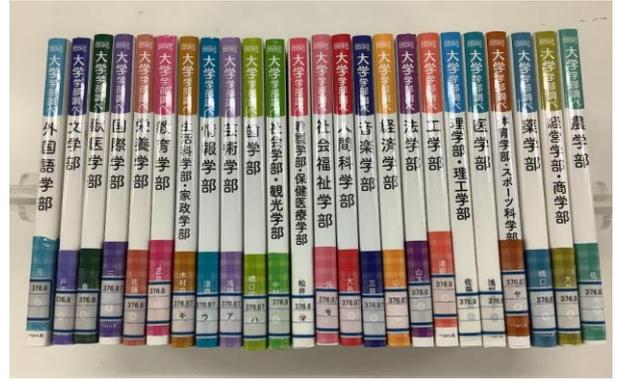
2023.12

牛久栄進高校図書館

待ちに待った冬休みが始まりますね。寒さも本格的になってきましたが、街はクリスマスのイルミネーションに彩られ、華やかな雰囲気です。

3年生はいよいよ総仕上げの時期。この大変な時期を乗り越えてこそ、暖かく希望にあふれた春を迎えることができると信じて、頑張ってください。応援しています！

1・2年生も年が明けると、いわゆる「0学期」、新しい年次に向けての準備が始まります。進路について、具体的に考えなければならない時期とも言えます。図書館には職業や大学の学部・学科について調べるのに役立つ本を多く取り揃えています。次のステージに向けて意識の高まる時期、こうした本を読んで自分の知見を広げておくことも必要です。ぜひ役立ててください！



新着本もたくさん届いています。冬休みに入る前に図書館へ足を運び、お気に入りの本を探してみましよう。返却は冬休み明けでO.K.です。冬休み期間も平日は開館しています。部活動や課外授業で登校した際に本を借りることも可能です。



【お知らせ】冬休み中の図書館の開館日・時間は以下のとおりです。

12/25(月)~28(木)の4日間 → 7:30 ~ 17:00

1/4(木) → 閉館日(図書館内ワックスがけのため使用できません)

1/5(金) → 8:30 ~ 12:30(※午前中のみ開館)



◇新着コーナーからピックアップ！

黒柳徹子著『窓ぎわのトットちゃん』

初のアニメーション映画が公開中で、何かと話題の『窓ぎわのトットちゃん』。高校生の皆さんも、知らない人はいないんじゃないかと思われるほど有名な黒柳徹子さんの幼少時代の自叙伝です。1981年に発行されて以来、多くの人に読まれてきた作品です。何と自叙伝の発行部数でギネス記録を持っているそうです。寒い冬にぴったりの、心温まる素敵な物語です。ぜひ読んでみてください！

窓ぎわの  
トットちゃん  
黒柳徹子

## ◇図書委員中央研修会オンライン大会に参加しました！

12月14日（木）に開催された図書委員の中央研修会に、本校から1年次の出村花奈さん、平塚心菜さんの2名が参加してくれました。コロナ禍以降、オンラインで開催されている研修会ですが、茨城県内の多くの高校の図書委員が集まって行われるので、とても良い経験になったかと思えます。

代表して、出村さんに感想を述べてもらいました。

「研修会ではビブリオバトルの決勝戦を見ることができ、伝えたいことをより効果的に伝えるための工夫を沢山学ぶことができました。惹き込まれる構成で、読んでみたい本が増えました。また、私はPOP作りで夏目漱石の「夢十夜」を選びました。この本は「こんな夢を見た」という冒頭が印象的で、抽象的な部分も多いですが心情描写がとても素敵な作品です。図書室には「乙女の本棚」シリーズという本当に綺麗な絵の絵本版があるので、是非手に取ってみてください。」

平塚さんは、『バッタを倒しにアフリカへ』でPOPを作りました。時間は短かったのですが、二人ともとても素敵な作品を残してくれました。



短い時間なので集中してPOPづくり。栄進祭の作品も参考に…



オンラインでどのような工夫をしたか報告しました！



短時間とは思えない出来栄です！交流も楽しかったようで何よりでした

## ◇新着本紹介

細谷 功	13歳から鍛える具体と抽象	今野 敏	スクープ
久坂部 羊	怖い患者	伊岡 瞬	不審者
酒徒	あたらしい家中華	知稔実希人	屋上のテロリスト
宮川宗生 他	ステージ！	白川 紺子	朱華姫の御召人 上・下
朝井 まかて	類	松村 涼哉	15歳のテロリスト
宮本 輝	灯台からの響き	大沼 紀子	真夜中のパン屋さん5・6
堂場 瞬一	ボーダーズ	朝井リョウ 他	短編宝箱
津村記 久子	水車小屋のネネ	松嶋 智左	流警
ASIOS	謎解き超常現象	梶谷 真司	問うとはどういうことか
原田 ひ香	東京ロンダリング	今野 敏	スクープ
凧良 ゆう	星を編む	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     本屋大賞を受賞した凧良ゆうさんの『汝、星のごとく』の続編、いわゆるスピノフストーリーです！続きが気になっている人はぜひ…                 </div>	
松橋 利光	プロの履歴書からわかる生きものの仕事		
松田 忠徳	全国温泉大全 湯めぐりをもっと楽しむ極意		
野口 竜司	ChatGPT時代の文系AI人材になる		
小林 孝延	妻が余命宣告されたとき、僕は保護犬を飼うことにした		
吉野 朋美	まんがで読む万葉集・古今和歌集・新古今和歌集		

星を編む  
凧良ゆう

## ◇司書室から 村上春樹著『街とその不確かな壁』

大学時代に読んだ村上春樹の『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』。今にして思えば、高校生の頃に図書館だよりでおススメしていた先生がいらっしゃって、何となく頭の片隅に残っていたのが、読んだきっかけだったと思う。その話を新たに書き直したような世界観の『街とその不確かな壁』。城壁のような高い壁に囲まれた不思議な街、街の中と外の世界を行き来できる金色の毛におおわれた獣、影のない世界、「古い夢」をひたすら読み続ける夢読みという仕事、濃い緑色の薬草茶や暖かそうなストーブが象徴的な古びた図書館。『世界の終わりと…』に描かれた街や壁などと比較すると、少しアレンジされて異なるところもありますが、記憶を反芻するようにその差異を確かめながら読み進める楽しさがありました。長編ですが、時間をかけて読んで、その作品の世界観にどっぷりと浸るのもよいものです。いつかはノーベル文学賞と期待される村上春樹氏。まだ読んだことがない人は、一度読んでみてはいかがでしょうか？最初は短編集から読んでみるのがおススメです。（小林）

街とその不確かな壁  
村上春樹